

令和3年度 第2回 学校運営協議会 議事録

令和4年1月20日(木)

午後1時15分より

和光市立第五小学校 会議室

出席者 富澤 信次委員 小田原 克行委員 中尾 祐子委員 野村 良孝委員
新井 悦子委員 戸田 美喜委員 來嶋 実樹子 船越 一英
(8名、欠席:松川 寿幸委員 田川 文雄委員 津山 由佳委員)

※開会前に、感染症対策として間隔を取ってパーティションで区切りながら、給食の試食。
児童と同様に黙食をお願いした。

1 開会の言葉 (教頭 船越 一英)

2 学校長あいさつ (校長 來嶋 実樹子)

3 2学期の運営状況について (校長 來嶋 実樹子)

(以下、資料・パワーポイントをもとに説明)

- ・8月30日、放送による始業式から2学期を開始
- ・9月中の分散登校の工夫について
- ・縮小したり、内容変更したりと工夫しながら実施した行事の紹介
- ・2年ぶりの実施となった宿泊行事、社会科見学等の紹介
- ・児童の様子や学校運営上の課題についての熟議

<ここまでの議題についての質疑応答>

質問 学級担任の交代が多いようだが、組織的に問題はないのか。

回答 どのケースも担任の妊娠や入院、家庭の事情といった個人的な問題での交代であり、組織的な問題に起因する交代のケースはないと捉えている。

質問 特別支援学級設置の要望という話があったが、例年どのくらいの希望者がいるのか。

回答 年度によって希望者の数は変わるため、例年どのくらいというお答えはできない。また、特別支援学級を設置するための施設面での問題があり、希望に応じてすぐに設置というわけにはいかない学校事情も抱えているのが現状である。

質問 オンライン授業で学力定着度に差はないのか。

回答 分散登校時のオンライン授業は、理解度に差が出ないように、学習進度を対面授業よりも抑え、オンライン授業に特化して実施した。オンライン授業だから定着度に差が出たということはないが、進捗が遅くなることで、もしオンライン授業だけになった場合は学習範囲をすべて終えることは難しくなる、との報告は受けている。

質問 不登校児童の増加が学校課題として挙げられているが、オンラインはその解決策となっているか。

回答 中には解決策となるケースもあるが、それよりも今まで頑張って登校していた児童がオンラインにすることで登校できなくなり、その内オンラインにも参加できなくなるといったケースの方が多く現状がある。オンラインのよさを生かしつつも、これまでと違った不登校対策も考えていく必要があるので、良いアイデアがあればご提案いただけると助かる。

4 その他 (教頭 船越 一英)

- ・学校課題研究について、ご案内の通り昨年度から3か年計画で道徳教育の研究に取り組んでいるが、今年度から新たに埼玉県道徳教育推進モデル校の指定を受け、研究に取り組んでいる。
- ・白子川沿いのフェンスについて、工事をしていただき、安全上だけでなく防犯上も対策がしっかりできた。
- ・学校評価について、このような社会情勢でご来校いただける機会が減り、なかなか難しいところがあるが、忌憚のないご意見を頂戴したい。
- ・次回は3月を予定しているが、まん延防止等重点措置の関係で書面開催となる可能性があることをご承知おきいただきたい。

5 閉会の言葉 (教頭 船越 一英)